

日本衛星ビジネス協会 第2回見学会報告

日本衛星ビジネス協会は、平成22年11月24日（水）、茨城県常陸太田市にある、国土交通省東京航空局の常陸太田航空衛星センターにて、今年度第2回目となる見学会を実施しました。

運輸多目的衛星（MTSAT）は、国土交通省の航空局と気象庁が共同で打上げており、現在東経140度にMTSAT-1R、東経145度にMTSAT-2が配置されています。

常陸太田航空衛星センターは、平成15年に発足。その後2機のMTSAT打上げを経て、平成18年より運用を開始しており、現在は神戸航空衛星センターと共に、MTSATの位置、姿勢、運用状態の監視・制御ならびにMTSATを介した航空機と航空交通管制機関との間の管制通信、データ通信等の中継及び衛星航法のためのGPS補強情報の作成・提供を3つの業務グループにより実施しています。

見学会当日は、学生会員を含む28名が参加し、衛星運用業務説明と、MTSAT衛星航法補強システム（MSAS）に関する説明を受け、センターの皆様との活発な質疑応答・意見交換が行われました。

また、運用室を始めとして、安定的な運用を行うために電力や機械設備の監視を行っている中央監視室や、停電等により商用電源が利用できない場合に備えた発電機室、地震発生時に揺れを減衰させる免震構造などを見学し、空の安全を効率的かつ万全な体制で常時提供するために、設備・運用システムの両面において、多岐にわたるリスク対策がなされていることを実感しました。

常陸太田航空衛星センターの皆様、本当にありがとうございました。



直径13mのアンテナ（MTSAT-1R用）。MTSAT-2用のアンテナとともに2基が送受信局舎屋上に設置。



1 F に設置の、非常用発電装置を見学する会員。